令和８年２月提出

大船渡市議会議長　様

会派　新政同友会

会　派　視　察　報　告　書

視察先・視察項目

１．八戸ポータルミュージアム はっち

日時：令和８年１月 29 日 13 時 30 分～14 時 30 分

＜研修テーマ＞　地域資源を生かした新しい魅力発見

２．八戸ブックセンター

日時：令和８年１月 29 日 16 時～17 時

＜研修テーマ＞　本でまちを盛り上げるための拠点づくり

３．八戸市役所

日時：令和８年１月 30 日９時 30 分～10 時 30 分

＜研修テーマ＞　町内のデジタル化を目指した取組

４．視察参加者

熊谷 昭浩　　西風 雅史　　今野 善信

三浦　 隆　　菅原　 実　　小松 則也

八戸市役所 議場

●「八戸ポータルミュージアム はっち」について

【事業コンセプト】

1600 年代から城下町として発展してきた八戸の中心部は、八戸三社大祭や八戸えんぶりなど国の重要無形民俗文化財に指定された２つの伝統的な祭りが行われてきた場所である。また、昭和 30 年代から商業、金融、行政等の機能が集まり、まさに八戸の中心部、都市の顔として栄えてきた。「はっち」はそんな八戸の顔である中心地を元気にし、新しいまちを創り出すために生まれた。

館内は、随所にくつろぎの場があり、ショッピングや旅の合間に一休みができる。その時々のイベントとの出会いも楽しみの一つである。

【フロアの概要】

１Ｆ　観光インフォメーション機能を持つ。3 階まで吹き抜け。カフェやショップがある。

２Ｆ　「シアター２」舞台照明や音響設備がある。ギャラリーのほか、観光展示がある。

３Ｆ　ギャラリーほか、茶会や日本舞踊など多様な利用ができる。「和のスタジオ」もある。

４Ｆ　木のぬくもりあふれた子育て集いの広場。料理教室などもできる「食のスタジオ」がある。

５Ｆ　長期的な創作活動ができるスペースがある。コピーや印刷ができる。

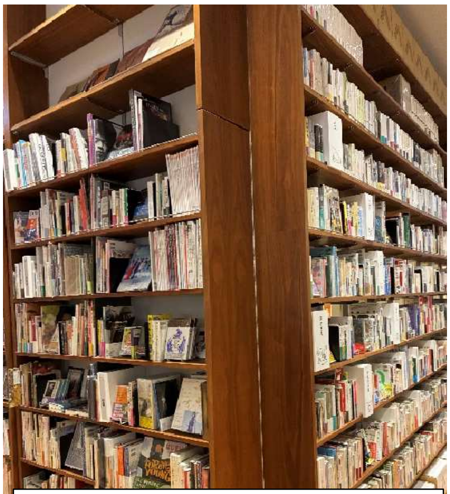
【感想】

平日にも関わらず、どの階にも利用者がおり活動を行っていた。また、どの階でもお茶や食事をできる場所が設けてあり、リラックスできる雰囲気の中で楽しく活動ができるように演出されていた。市民にも旅行者にも喜ばれる施設であると感じた。

●「八戸ブックセンター」について

【事業コンセプト】

八戸に本好きな人を増やし、本でまちを盛り上げるための拠点。全ての本は、特別な展示を除き、購入することができる。施設内には、ハンモック席や八戸が生んだ作家・三浦哲郎の文机部屋を再現した部屋など、さまざまな読書席を用意しており、好きな場所でドリンクを片手にゆっくりと読書を楽しむことができる。本の面白さを伝えるギャラリー展示や企画もある。



書棚の奥はミーティングルーム

【八戸ブックセンターの基本方針】

① **本を「読む人」を増やす**

本が身近にある環境をつくると同時に、それを手に取りたくなるような工夫ある空間設計やイベントの開催などを行う。

② **本を「書く人」を増やす**

八戸市は、三浦哲郎という偉大な作家を生んでいる。八戸ブックセンターは、本を書く人を増やすために執筆するブースを設け、出版の相談やワークショップの開催などを行う。

③ **本で「まち」を盛り上げる**

本から得た知識や情報、感情や思考を共有することで、より深く楽しむことができる。八戸ブックセンターは、本でまちを盛り上げるために、さまざまな施策を行う

事業名（例）	事　業　内　容
本のまち読書会	作家や編集者、書評家を招き、普段と違う目線から話を聞くことができるトークイベントを通じて、さらに本を楽しむきっかけになっている。ブックセンターが市民活動の場になっている。
アカデミック・トーク	教育機関や文化施設などから講師を招き、本を軸にした各分野の専門的なトークイベントは、本に対する興味を湧き立たせる。各講師に選書していただいた「ひと棚」を展開する。
執筆・出版 ワークショップ	「作る楽しさ」を体験、共有する。八戸市美術館と協働し、さまざまなワークショップやミーティングを行い、表現活動を行う人同士の交流の場を提供している。
本のまち 八戸ブックフェス	年に一度、中心街（はっち、マチニワ、ブックセンター）で開催。一箱古本市、古書店ブース、出版社ブースなどを開設し、作家のトークイベントを実施。2 日間の開催期間、各エリアは、満員御礼状態になっている。
「本のまち八戸」 読書へのとびら	八戸魅力創出イベント「読書へのとびら」を開催。ジャーナリストの池上彰さんから「本のちから」と題して、講演をいただいた。「本好きがいるまちは、必ず発展する」との言葉に感銘。来場者は約 1,200 名。これを機に「本のまち八戸」が全国的に有名になる。

【感想】

本の価値については、誰もが知っている。どこのまちにも、書店が一つ以上はある。スマホに変わって、本を読ませたいと願うのはみな同じだろうと思う。しかし、近年では本離れ、活字離れが加速している。そんな中、八戸市の取り組みは、目を見張るものがあった。きっかけは、前八戸市長の選挙公約だったとのこと。本好きな子ども達を育てたい。本を好む市民であってほしい。という市長の願いから八戸ブックセンターは誕生したと話を伺った。（八戸ブックセンター所長：石木田 誠氏）本の良さは分かっていても、なかなかできることではない。八戸市役所の皆様、市民の皆様の本気度に感銘した。

●「八戸市の町内会活性化の取り組み」について

【町内会を取り巻く課題】

・町内会・自治会の加入率は平成25年は64.8%であったが、令和6年度は58.4%と減少している。

・町内会役員や会員の高齢化・脱会が進む。

・若い人に町内会に加入してもらえない。

・町内会活動の担い手不足（一人で複数の役割を担っている）

【八戸市連合町内会連絡協議会の概要】

平成24年2月14日設立。市内各地区連合町内会相互の連携を密にし、町内会に共通する課題に組織的に取り組むことにより、地域コミュニティ活動の中心的な役割を担う連合町内会及び町内会の活性化を図ることを目的とする。基盤事業は、①町内会加入促進事業、②組織強化事業、③普及・啓発事業。

以下は、八戸市連合町内会連絡協議会で取り組んでいる事業「町内デジタル化」の一例である。

事業名（例）	事　業　内　容
町内会どこでもPRプロジェクト	のぼりの設置、チラシの配布、ポスターの掲示
町内会加入促進キャンペーン	グッズの配布、アンケートの実施、町内会加入取次窓口の設置
第9回不動産関係団体との 意見交換会	不動産関係団体と連合協議会と八戸市による情報共有 課題や方策についての意見交換
地域リーダー応援講座	「地域の底力」実践プロジェクト事業に107名が参加
地域コニュニティ人材 育成アカデミー	各回40名の定員。年3回で115名が参加 ～スマートフォンやネットの活用～ ～SNSで作る新しいコミュニティの形～
町内会のデジタル化の実現	○町内会活動への参加者が増え、地域コミュニティが活性化し、災害時の連携やごみ集積所の管理といった互助活動が持続的に行われることを目指す。 ○アンケートの結果は、年に1回～2回なら町内活動に協力できるという人が73%であった。 ○地域公民館では随時、高齢者向けスマホ講座を開催し、ソフトバンク（株）が無料で行う「出張スマホ教室」に取り次いでいる。スマホの所持率は96.2%、電子メールやSNSの利用率は26.9%となっている。

＜対応いただいた八戸市職員の皆様＞
・八戸市議会事務局議会総務課 課長　関川寿美子様
・八戸市議会事務局議事調査課 主幹　蛭子俊輔様
・八戸市総合政策部 市民連携推進課 地域連携グループ
　上村侑平様

八戸市議場見学

【感想】
八戸市連合町内会連絡協議会を立ち上げること自体が難しく、さらに町内のデジタル化は一段とハードルが高い。それをやり遂げているのだから、相当に意識が高い市民であると言わざるを得ない。そこには、市の役割が大きいと感じた。地域担当職員は、確か 24 名であったと記憶している。また、各町内会の年会費は、約 6,000 円であると話していた。非常に安いと思ったが、市が町内会に補助金を出しているとのこと。手厚い市のサポートがあるがゆえに行える取り組みであると納得した。
町内のデジタル化及び各種取り組みについて、学べたことは有益であった。

【謝辞】
青森市は、大雪という天候下であった。八戸市は、それほど雪は積もっていなかったが、風が相当冷たかった。また、衆議院議員選挙中でもあった。そんな中、八戸市のブックセンター所長の石木田様、八戸市議会事務局の総務課長 関川様、主幹の蛭子様、市民推進課の上村様には、資料をたくさん用意いただき上に、丁寧で分かりやすい説明をいただき、理解を得るには十分であった。新政同友会一同心から感謝申し上げる。

５．その他
●八食センター
八戸港で水揚げされたばかりの新鮮な魚介類や生鮮野菜、県南地方の物産やおみやげがそろう巨大市場。全長 170m のビックストリートに、約 60 店舗を連ねている。館内には、「厨スタジアム」と「味横丁」２つの飲食店があり、市場で買った魚介類や食材を七厘で焼いて食べる「七厘村」も人気である。